

ほやほや

Japanese Red Cross Fukui Hospital

福井赤十字病院広報誌

vol.068

令和元年10月発行

日本赤十字社 福井赤十字病院
Japanese Red Cross Society

ご自由に
おとりください。



がん征圧月間に合わせ 様々な啓発活動を開催

脳の病気の最新治療

～カテーテルで切らずに治す脳血管内治療～

教えてドクターQ&A (外科)

病棟紹介 (1-8病棟)

栄養サポートチーム (NST)

眼科豆知識

10月は臓器移植推進月間

被ばく傷病者受入訓練

栄養課おすすめレシピ

イベントスケジュール

歸山さんのみんなで歌おう!
ピアノコンサート
11/13(水)・12/11(水)・1/8(水)
13:00～13:30

FRM大嶋さんソプラノ
リコーダーコンサート
11/15(金)・12/20(金)・1/17(金)
13:30～14:00

DUO詩音コンサート
(サクソ・ピアノ)
11/28(木)・12/26(木)・1/23(木)
13:00～13:30

栄養課
おすすめ!

秋レシピ いわし 鯛の南蛮漬け

秋は「読書の秋」「スポーツの秋」とも言われますが、やはり秋といえば「食欲の秋」です。

秋が旬とされる鯛は日本全国で獲れ、昔から大衆に親しまれている魚です。鯛の漁獲量の半分を占めるマイワシは7～10月、1/4を占めるカタクチイワシは9～1月に脂がのっており、旬とされています。

鯛にはカルシウムが多く、さらにカルシウムの吸収に必要なビタミンDも多く含まれているので一石二鳥の魚です。今回は鯛の美味しい食べ方のひとつですので、ぜひお試しください。



材料 (2人分)

鯛	400g (4尾)
玉ねぎ	30g (1/8個)
人参	30g (1/6本)
片栗粉	適量
油	適量
米酢	60cc
水	90cc
砂糖	27g (大さじ3)
★塩	2g (小さじ1/3)
濃口醤油	8cc (大さじ1/2)
鷹の爪	輪切り適量

作り方

- ①鯛(いわし)は頭とはらわたを取り除き、水気を取ってから塩・こしょうで軽く下味を付けて、片栗粉を薄くまぶし付けます。
- ②玉ねぎと人参を細切りにします。
- ③★の調味料を鍋に入れ、ひと煮立ちさせます。玉ねぎと人参を加えて軽くボイルします。
- ④鯛を油で揚げます。
- ⑤バットやタッパーに入れた③に揚げた鯛を漬け込み、冷蔵庫で1～2時間おいたら出来上がり。

栄養量 (1人分)

エネルギー	325kcal
たんぱく質	19.6g
脂質	21.2g
炭水化物	10.7g
塩分	1.0g

(漬け汁は50%摂取で計算)

今回の表紙

チーム一丸となり取り組んでいます!

表紙は、脳の病気の最新治療である脳血管内治療の様子です。

当院は脳神経センターを有し、県内最多である脳血管内治療専門医4名をはじめ、脳卒中に関する知識に長けたスタッフが一丸となり、1分でも早く治療を開始できるよう日々取り組んでいます。



+ 福井赤十字病院

理念

人道・博愛の精神のもと、県民が求める優れた医療を行います。

基本方針

- 患者さんの権利と意思を尊重し、協働して医療を行います。
- 安全と質を向上させ、優しい医療を行います。
- 人間性豊かで専門性を兼ね備えた医療人を育成します。
- 急性期医療・疾病予防・災害時医療に積極的に取り組みます。
- 保健・医療・福祉と連携し、地域社会に貢献します。

〒918-8501 福井県福井市月見2丁目4番1号
TEL.0776-36-3630代 FAX.0776-36-4133
E-mail webmaster@fukui-med.jrc.or.jp
http://www.fukui-med.jrc.or.jp/
広報に関するご意見、ご感想をお待ちしています。

ほやほや

“ほやほや”と納得できる情報、できてきた“ほやほや”の情報をみなさまに提供していく季刊発行の院内情報誌です。院内の広報委員で毎回その季節に合った特集を組み、お役に立てる情報を掲載すべく病院各部門のスタッフそれぞれから原稿を集め誌面を制作しています。

脳の病気の最新治療 ～カテーテルで切らずに治す 脳血管内治療～

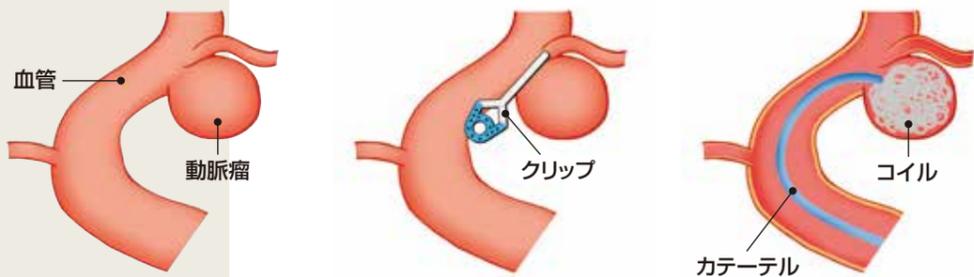


脳神経外科 部長
早瀬 陸

脳の病気の多くはこれまで、頭を開ける開頭手術で治療されてきましたが、最近では頭を開けずにカテーテルで行う脳血管内治療の進歩が目覚ましく、さまざまな病気を脳血管内治療で治すことが可能です。たとえばクモ膜下出血という病気は、一旦発症するとおよそ半数の方は亡くなられ、命が助かったとしても多くは後遺症のために元の生活に戻ることができなくなってしまう。これまでは、脳動脈瘤に血液が入り破裂しないように、脳動脈瘤の根元にクリップをかけるクリッピング術が主流でした。クリッピング術は歴史もあり有効性も確立した手術法ですが、開頭しないといけないため、大きな傷がどうしても残りますし、体への負担が大きいという欠点があります。

脳血管内治療では、コイルと呼ばれるとても柔らかい金属製の糸を動脈瘤の中に充填することで動脈瘤が破裂しないように治療します。手首や足の付根の脈のよく触れるところから直径2～3mmのカテーテルを動脈の中を通して進めます。カテーテルの先端がどこにあるかをレントゲンで確認しながら、動脈瘤の中にコイルを数本挿入すれば治療は終了です。傷はほとんど目立ちません。当院では2011年よりこの治療を積極的に取り入れ、200例を超す治療実績があります。

最近ではMRI検査が普及し、クモ膜下出血を発症する前の、破裂していない動脈瘤(未破裂脳動脈瘤)呼びますが、偶然見つかることも増えてきました。未破裂脳動脈瘤は成人の3～6%(※)と比較的頻度の高い病気です。見つかった未破裂脳動脈瘤のすべてに治療が必要なのわけではありませんし、動脈瘤の場所・大きさ・形状から脳血管内治療よりもクリッピング術のほうが適している場合もあります。いずれにせよ、日進月歩で治療技術が進歩してきますので、未破裂脳動脈瘤と診断されたら、専門医とどのよう治療されるかをよく相談することをおすすめします。



手術前

開頭手術
クリッピング術

カテーテル手術
コイル塞栓術

※参考文献/Vlak MH, et al. Prevalence of unruptured intracranial aneurysms, with emphasis on sex, age, comorbidity, country, and time period: a systematic review and meta-analysis. Lancet Neurol. 2011 Jul;10(7):626-36.

がん征圧月間(9月) ～様々な啓発活動が行われました～

がん教育に関する 命の授業を実施しました

がん教育・がんに対する正しい知識の普及啓発活動については、福井県が対策推進計画において推進されており、近年、当院医師も県内の小学校に出向いて出前講座などを実施しています。

今年、がん征圧月間に合わせ、小学生とその保護者・学校教育関係者医療従事者を対象とした「がん教育セミナー」の授業「がんってどのような病気？」を当院で開催しました。

講師を務めたのは、東京女子医科大学がんセンター長の林和彦医師。医師として診療を行う一方、教員免許を取得し全国の小中高生にがん教育の大切さを伝えていきます。当日は、約100名の参加者が、がんについての正しい知識だけでなく、がんに向き合う人々を思いやることや、命を大切にすることを学んでいました。



がん征圧月間パネル展を 開催しました

9月2日(月)から9月27日(月)の間、がん征圧月間パネル展を開催しました。今年のテーマは「がんの予防」。

がんを予防するポイント①運動②栄養管理③禁煙④リラクゼーション⑤健診による早期発見が大切であることをパネルで紹介しました。その他、禁煙作品コンクールの受賞作品も展示しました。また、パネル展開催中は、相談窓口をエントランスホールに開設し、がんに関する様々な相談を受け付けました。



号外も
発行されました

リレーフォーライフ 2019 in ふくいに 参加しました

9月7日(土)から9月8日(日)まで、今年で9回目となるリレーフォーライフ2019 in ふくいに健康の森で開催され、当院も参加しました。

リレーフォーライフ(RFL)とは、がんに向き合う人たちの勇気を称え、苦しみを分かち合い、共に支えあつていくことを再確認するチャリティーイベントで、たすきをつなげながら24時間歩き続けます。当日は、9月とは思えないほどの猛暑日でしたが、患者さん・ご家族・スタッフみんなで、笑顔でたすきをつなぎました。



初めて、ハートちゃん付きの
タスキを着けて歩きました。



自分のために・大切な人のために 健診を受けましょう 日曜日に乳がん・子宮がん検診が受けられます

福井県内に住んでいる方で、市町が発行するがん検診の受診券や無料クーポン券をお持ちの方が対象です。

平日は忙しい女性にお勧めしたいのが、休日に行っている乳がん検診・子宮がん検診(頸部)です。当院では乳がん検診で希望の方には触診も行っています。

2019年度 乳がん検診日・子宮がん検診日(要予約)
11/24(日)・12/22(日)・2/16(日) 時間 9:00～11:30

お申し込み先: 福井赤十字病院
TEL0776-36-3630(代表) 乳腺外科外来・産婦人科外来



病棟紹介

1-8病棟



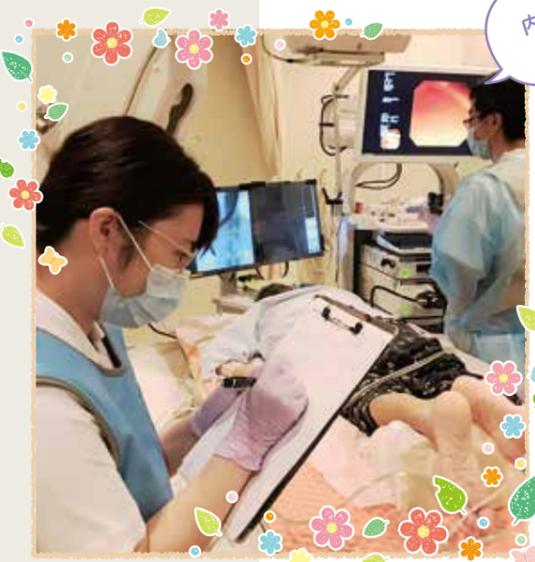
1-8病棟は、2-8病棟とともに消化器センターとして主に消化器に疾患のある患者さんを受け入れています。

緊急入院・処置に対応

1-8病棟では主に消化器内科を担当しています。

消化器科の疾患には総胆管結石や消化管出血など緊急を要するものが多くあります。

そのため、月平均約60件の緊急入院があります。病棟看護師はそのような緊急入院にいつでも素早く対応するために内視鏡治療の介助を習得し、夜間も待機制をとっています。



内視鏡治療の介助



チームワーク

私たちは、チームワークを大切にしています。医師と看護師のチームワークの良さはもちろんですが、薬剤師やリハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーなど患者さんをサポートする様々な職種と協働しています。多職種で月に2回カンファレンスを開いて一人ひとりの病状や今後の治療方針を話し合い、患者さんの求める優れた医療と優しい看護の提供を目指しています。



多職種によるカンファレンス



医師と看護師で抗癌剤の確認

教えてドクター Q&A 《外科》

大腸がんの治療の中心は現在でも手術です。中でも大腸切除における腹腔鏡(内視鏡)手術の割合は年々増加し、全国的にも7割を超えています。さらに直腸がんに対しては、平成30年4月からロボット支援手術が保険適用となり、当院でも令和1年8月末現在、22例のロボット支援手術を行っています。今回はロボット支援手術について、よくあるご質問以下にまとめました。それ以外でもお気軽にお尋ねください。



外科部長
青竹 利治
日本外科学会専門医・指導医

ロボット支援手術について

Q. どんな大腸がんに行いますか？

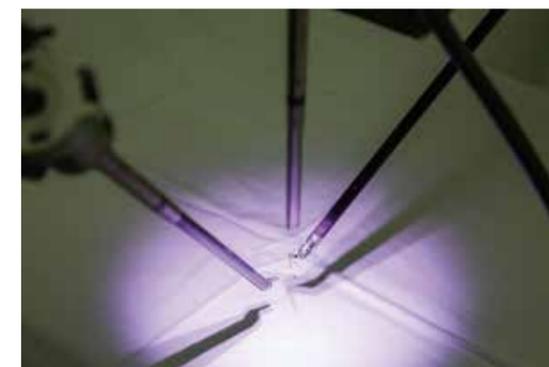
A. 肛門に近い直腸がんに対して行います。通常の腹腔鏡手術と同じように、5か所の小さい穴をお腹にあけて、トロッカーという筒状の器具を入れます。炭酸ガスで腹腔(お腹の中)を膨らませ、ロボット(当院ではダビンチXiを使用しています)の4本の腕を連結して手術を行います。ロボットを操作するのは資格をもった外科医です。

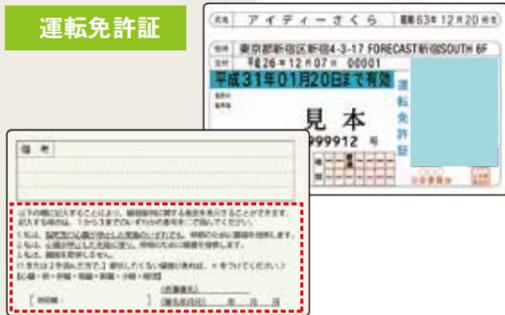
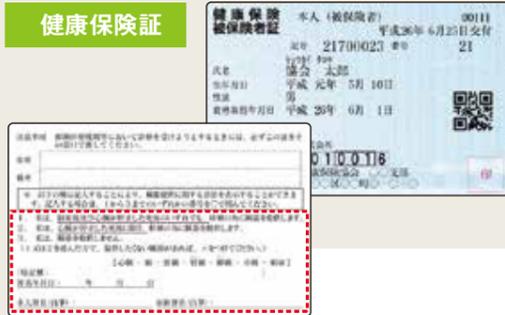


Q. ロボット支援手術の利点はなんですか？

A. まず、腹腔鏡手術の利点として開腹手術と比べて創が小さく、「見た目が良い」「痛みが少ない」といった点があります。更にカメラの画像を大きい画面で見ながら手術をします。よく見えるため、繊細な手術が可能で、助手の医師も同じように見えます。大事なお腹の神経を残すことで内臓の働き(排尿や排便など)を温存できます。また過不足のないがんの摘出ができます。

ロボット支援手術では、さらにカメラは高性能となります。また鉗子(開腹手術でのピンセットやハサミにあたるもの)の関節が多く、通常の腹腔鏡のものに比べていろんな角度に曲がります。その結果、更に繊細な手術が可能となります。また通常の腹腔鏡手術では難しい症例、特に骨盤の狭い男性や内臓脂肪の多い方などでは取り回しがよく非常に有効です。





皆さんは、臓器提供のことをご存知ですか。

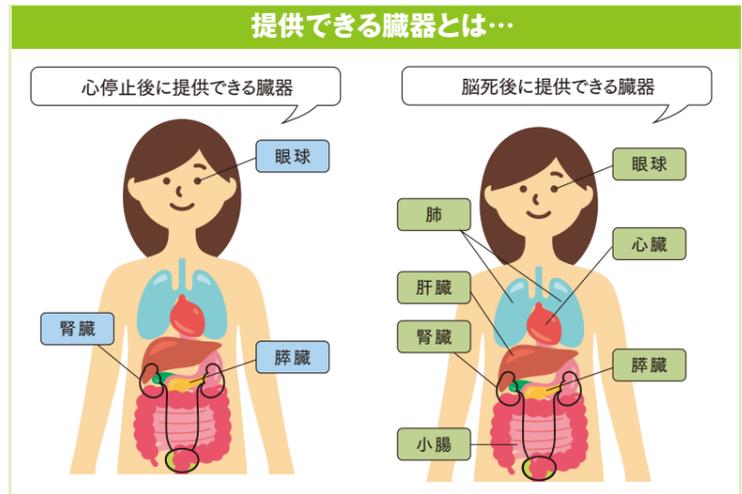
まず、臓器提供の意思表示は、臓器を「提供する」という意思表示だけでなく、臓器を「提供しない」という意思も表示できるようにしており、どちらも尊重されます。臓器を「提供しない」という意思表示がある場合には、本人の意思が尊重されるため、家族が提供を希望しても提供されることはありません。内容はいつでも変更したり、取り消すことができます。

では、提供できる臓器とは何でしょうか。脳死後(※)と、心臓が停止した死後では提供できる臓器に違いがあります。そして、提供できる臓器・提供しない臓器は

患者や家族の希望に沿って決定します。多くの人たちによって支えられている臓器移植ですが、善意による臓器提供がなければこの医療は成り立ちません。ご自分の意思を尊重するためにも臓器移植について考え、家族と話し合い、「提供しない」「提供しない」どちらかの意思を示しておくことが大切です。

毎年10月は、臓器移植推進月間です。臓器を提供する、提供しないにかかわらず、自分の意思を家族や大切な方とともに話し合い、命の大切さを改めて考える機会につなげていただけたらと思います。

※脳全体の働きが無くなり、人工呼吸器などの助けがなければ心臓が停止してしまう状態



被ばく傷病者の受入訓練を行いました。

8月30日(金)〜31日(土)にかけて、福井県原子力総合防災訓練が行われました。

当院では同訓練の一部として、31日に関西電力美浜原子力発電所内で作業中の事故により、放射性物質汚染傷病者が1名発生したとの想定で被ばく傷病者受入訓練を行いました。

実際に関西電力美浜原子力発電所から、同社のヘリコプターで傷病者を当院屋上のヘリポートまで搬送し、屋上ヘリポートから除染室までの移送、併せて除染室の養生や防護服の着用手順の確認、傷病者の除染(傷病者の放射線物質を取り除く作業)等の訓練を行いました。

当院は、原子力災害拠点病院として、今回の訓練を通じて、関係機関との連携を深め、万一の災害に対する機能強化・充実に努めてまいります。

医療チーム紹介

患者さんにとって最善の栄養管理を提案 栄養サポートチーム(NST)

NSTとは、栄養サポートチーム(Nutrition Support Team)の略称です。

栄養は人間が生きていくうえで無くてはならない大切なものです。特に入院加療を必要とされる患者さんは、発熱や食欲不振、吐き気、下痢など様々な理由で食事が十分に摂れず、栄養が不足していることが多々あります(低栄養)。低栄養の状態だと、免疫能の低下や体力の低下を招き、感染症の併発や、手術が行えなくなる、術後の合併症(傷の治癒遅延や感染)が起こる等のリスクが高くなると言われています。またリハビリなどにも支障がでてしまいます。

そういった低栄養での不利益を予防・改善するために、当院では医師・歯科医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・臨床検査技師・言語聴覚士など様々な専門職員がチーム(NST)を組んで栄養サポートに努めています。

すべての入院患者さんに対し、定期的に栄養状態の評価を行い、低栄養のリスクが高いと判定された場合、NSTが食事内容や栄養剤、点滴内容について主治医と相談を行い、一人ひとりに合わせた最善の栄養管理を提案しています。

また病院スタッフの栄養に関する知識向上をはかるため、毎月NST研修会を開催し、病院全体で充実した栄養治療を提供できるよう心掛けています。

カンファレンス

患者さんの状態をチーム員で共有し、今後の対応を検討。



ラウンド

実際に患者さんの様子を見て状態を把握。



チーム

専門性を生かした意見交換も、積極的に実施しています。



眼科から豆知識

眼科検査の専門職は、どんな仕事をするの？

Q 視能訓練士とは？

A 視機能の検査や、小児の弱視・斜視の視能矯正を行う、国家資格を持つ眼科の専門技術職です。

Q どんな仕事？

A 視力検査や眼圧測定、視野検査をはじめ、網膜の断層写真を撮影する画像診断検査、そして術前・術後の検査や眼鏡・コンタクトレンズ処方など、さまざまな眼科一般検査を行います。また、弱視や斜視に対しての視機能検査や訓練を行い、視機能が低下した状態となったロービジョンの方に、見えにくさを補うための光学的補助具(拡大読書器や遮光眼鏡)を選定します。

Q やりがいを感じる時は？

A 検査で関わった患者さんに「見えるようになったよ」「ロービジョン外来で関わった患者さんにお陰で生活しやすくなったよ。ありがとう。」と聞いてもらえた時です。直接患者さんの声を聞いて共感できることにやりがいを感じています。また、勉強会や学会への参加で日々勉強できる環境で働けることもやりがいのひとつです。

